

# 飼料用トウモロコシにおける 窒素施肥量が収量に及ぼす影響

窒素施肥量と収量の関係について検討しました。



窒素施肥量が0～24kg/10aの範囲において  
飼料用トウモロコシは良好な品質を維持しながら  
一定の割合で収量が増加します！

## 【収量】

 全乾物収量は5kg/10aの窒素施肥で100kg/10a増加します。

## 【品質】

 窒素施肥量の増加に伴い窒素吸収量は増加するが、硝酸態窒素濃度は低く抑えられます。

 トウモロコシサイレージ中の粗タンパク質濃度は標準成分値(8.0%)と大差ない濃度になります。

# 【具体的データ】

窒素施肥量と乾物収量の間には直線的な関係があります。

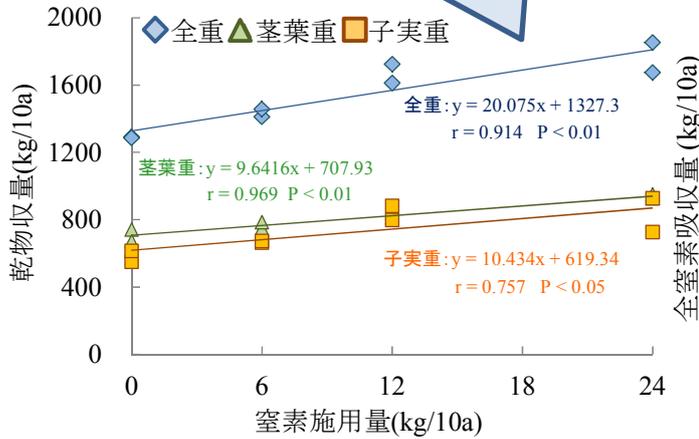


図1 窒素施肥量が乾物収量に及ぼす影響

硝酸態窒素濃度は安全な濃度(0.1%以下)です。

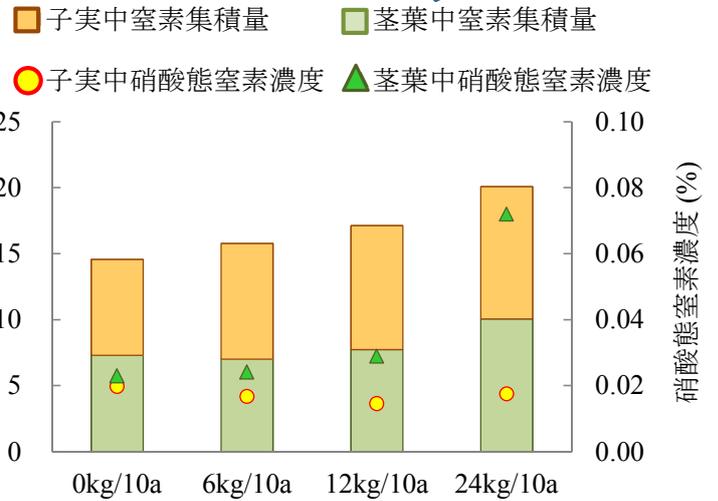


図2 窒素施肥量が窒素吸収量および硝酸態窒素濃度に及ぼす影響

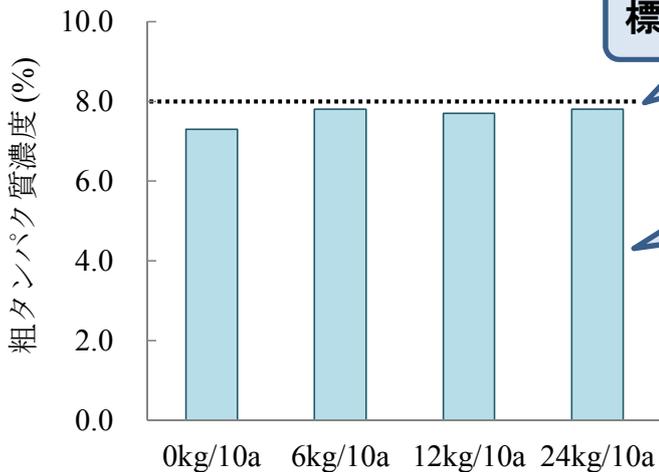


図3 窒素施肥量がサイレージ中粗タンパク質濃度に及ぼす影響

標準成分値(黄熟期): 8.0%

粗タンパク質濃度は窒素施肥量の影響をほとんど受けません。

【各図共通】

注1) リン酸および加里施肥量は鳥取県飼料作物施肥基準に準じた。

注2) 試験に用いた品種はKD671である。

## 【留意点】

1. 本情報は鳥取市美和(灰色低地土)において調査を行った結果である。
2. 堆肥多施用(8t/10a)条件下で行った試験結果である。
3. 収量は湿害の影響を強く受けるため、排水対策を十分に行ったうえで、窒素施肥量を調整する必要がある。